

(学年) 第2学年, (教科・科目) 地理歴史・世界史 A

一斉学習

(単元) 中華帝国の繁栄と東アジア～明の繁栄と東アジア～

(本時のねらい)

1. 約500年間続く中華帝国の基礎をつくった明の皇帝独裁体制について, 理解を深める。
2. 明の第3代皇帝永楽帝の積極的な政策と「北虜南倭」による政治の乱れを, 貿易と結びつけて考えることができる。

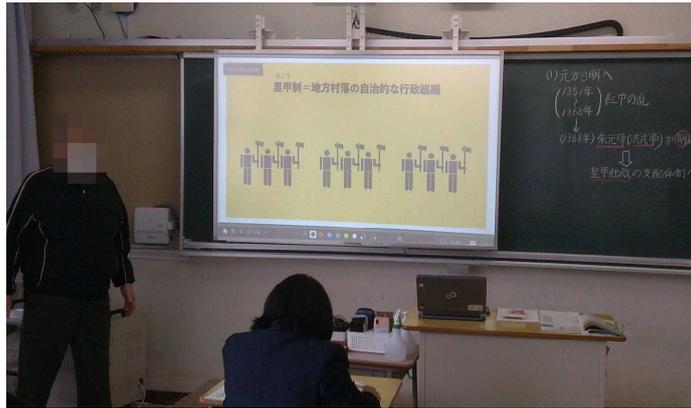
(ICT活用方法)

明・清という中華帝国を理解させるためには, その前の元の支配との違いに気づかせなければならない。プレゼンテーションソフトを用い電子黒板に提示することで, 漢民族の明の支配と満州族の清の支配を関連づけさせるとともに, 生徒の視線を前方に集中させることで, 前述の違いが理解しやすくなる。

(本時の展開)

時間	学習活動	指導事項	I C T活用方法
導入 5分	・14世紀半ば頃の中国王朝について復習をする。	・13世紀後半から14世紀後半にかけて中国を支配したのがモンゴル族であることに気づかせる。	・紅巾の乱の様子を示したプレゼンテーションソフトを電子黒板に提示する。
展開 40分	・明の朱元璋が皇帝独裁体制を築きあげていく過程の説明を聞く。  ・第3代皇帝永楽帝が体制を維持するために, どのような政策を実行したかの説明を聞く。また, その結果なぜ政治が乱れていったかについて話し合う。	・強い漢民族の国づくりのためにどのような制度を整えたか理解させる。  ・第3代皇帝永楽帝の積極的な政策を理解させ, その結果政治が乱れて国力が衰えていくことに触れる。	・分裂から統一し, 権力を皇帝に集中させる仕組みを電子黒板に提示する。特に国づくりの基礎となる里甲制に関する図を詳しく提示する。  ・朝貢国を増やすために, 鄭和を東南アジア・インド洋方面に派遣した様子を電子黒板に提示する。そのことにより「北虜南倭」を招き, 政治が乱れていった様子も電子黒板に提示する。
まとめ 5分	・本時の学習を振り返る。		

(授業の様子)



(板書とICT)

(生徒の反応)

- ・プレゼンテーションソフトを用いて重要な項目をわかりやすく提示したので、生徒の反応が大変良かった。

(ICT改善点)

- ・たくさんのプレゼンテーションを提示したので、学習のねらいがぼやけてしまった印象がある。ねらいに特化したプレゼンテーションの精選が必要である。

(感想)

- ・歴史的事実の列挙になってしまい、その事実から考察を深める活動ができなかった。さらに、プレゼンテーションソフトを使うことに一所懸命になり、時間配分をおろそかにし、生徒が深い学びができるところまでもっていけなかった。反省点を次に活かしたい。

(今後の展望)

- ・ICTを使い生徒を前に向かせるだけでは教育効果は上がらない。ICTの操作やそれを使った授業の回数を重ねることでよりよい授業実践が可能となるので、日々研修を怠らないようにしたい。